

報告書抄録

ふりがな	しまいせき・しおやきんせいじんじゃいせきしゅつどひんちょうさほうこく							
書名	島遺跡・塩屋金清神社遺跡出土品調査報告							
副書名	—							
シリーズ名	飛驒市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	三好清超、保谷里歩							
編集機関	飛驒市教育委員会							
所在地	〒509-4292 岐阜県飛驒市古川町本町2番22号 TEL 0577-73-7496 FAX 0577-73-7497							
発行年月日	2026年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
しまいせき 島遺跡 しおやきんせいじんじゃいせき 塩屋金清神社遺跡	ぎふけんひだし 岐阜県飛驒市 みやがわちょうしおや 宮川町 塩屋	21217	00037 00035	36° 23′ 21″	137° 10′ 59″	—	—	—
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
島遺跡 塩屋金清神社遺跡	集落跡	縄文時代	—	—	—			
要約	<p>島遺跡・塩屋金清神社遺跡では、縄文土器においては、縄文時代中期から後期・晩期にわたり北陸系土器の影響を受け続け、その中でも中期後葉から後期前葉までは信州系・関東系など異なる地域の影響を受けた状況が明らかになった。</p> <p>また、石製品においては、石棒の完成品と、原石・剝離・敲打・研磨段階の資料及び石製品の加工具の出土から、縄文時代中期及び後期における石棒の製作工程を明らかにすることができた。とともに、各製作段階と工具類から多様な製作の様相があること、中期の手持ち砥石と後期の据置砥石から研磨の工程の相違点が想定されること、塩屋金清神社遺跡のみ剥片が認められることから、原石搬入状況の相違点が想定されることなどを指摘することができた。</p> <p>以上より、島遺跡・塩屋金清神社遺跡出土品は、近傍の山林で産出する原石をもとに、縄文時代中期から後・晩期にかけて石棒を主とした「塩屋石」製の石製品製作に関わる資料群と位置付けることができる。</p>							

飛驒市文化財調査報告書 第20集

島遺跡・塩屋金清神社遺跡 出土品調査報告

発行日 2026年3月19日

編集・発行 飛驒市教育委員会

〒509-4292

岐阜県飛驒市古川町本町2番22号

TEL 0577(73)7496

印刷・製本 オフィスぼんぼり